

# 創業の精神

株式会社 八千代ポーター

平成30年11月吉日 作成

## ＜創業の精神の制定について＞

これから「創業の精神」制定の意義について説明したいと思います。  
まずはじめに、日本に数多くある会社の中で、縁あって株式会社八千代ポートリーの運命共同体の一員となつて、働いてくださっている皆さんに、私は心から感謝申し上げます。

「企業は人なり」とよく言われます。私たちは「豊かな自然環境の中で、健康な食文化を支える」**会社**です。しかし、商品力や、価格だけでは、競争に決して勝てません。社員一人一人の人間力と、サービスの品質が良くなければ、お客様に信頼していただくことはできません。そのことを常に念頭に置いてください。

この「創業の精神」は、創業者・笠原利八・千代、二代目・笠原節夫・邦子が、今日に至るまで必死に努力を積み重ねてきた、事業への思い・お客様への思い入れ・一緒に働いてくれた皆さんへの思い・<sup>いきざま</sup>生き様等を表しています。私・笠原政利が、その思いを受け止めて、「創業の精神」としてまとめました。私は、創業者の熱い魂をしっかりと胸に刻み、引き継いでいきます。本日この「創業の精神」を目にされ、耳にされた全員にこの精神が継承されることを心から願っています。

「経営理念」と、中期ビジョン・年度経営計画（戦略や戦術）は、すべてこの「創業の精神」をベースにして構築されなければ命を持つことができません。**当社の企業文化・組織風土・コア能力の根本にあるものが、この「創業の精神」に集約されていることを、しっかり頭に入れておいていただきたい**と思います。

## 創業の精神

### 【社会奉仕の精神】

- 豊かな食文化を創造し、健康で心豊かな生活に貢献したい。

### 【相互信頼の精神】

- 地域社会、お客様、協力業者様と共生し、相互信頼関係を構築したい。

### 【人間尊重の精神】

- あなたならではの仕事を通して、より生き生きと輝いてほしい。

### 【無我無心の精神】

- 社会のため、お客様のため、周りの人のため、無我無心。

### 【チャレンジ精神】

- チャレンジこそ創造。日々新たに。

### 【家族主義の精神】

- 職員は大事な家族。「わが人生に悔いなし」と言える、幸せを追求しよう。

## 【社会奉仕の精神】

○ 豊かな食文化を創造し、健康で心豊かな生活に貢献したい。

### (解説)

僕の祖父で創業者である笠原利八は、材木商や<sup>なっせんぎょう</sup>捺染業、その傍ら養鶏業を営んでいました。親分肌で、困っている人がいたら放っておけないような人でした。足が悪かった利八は、普通の人と同じことをすると負けてしまうので、戦後、材木商や捺染業を廃業し、養鶏業に専念しました。

事業意欲はありましたが、世のため、人のための思いが強く、まちづくりのためには土地を寄付したり、地域養鶏産業のために、横浜養鶏組合を立ち上げ、自らも理事長になるなど、地域社会の発展に尽力するような人でした。

二代目である父・笠原節夫は、幼少の頃、ガキ大将で面倒見がよく、男としてグズグズしてられない性分でした。昭和42（1967）年、節夫が19歳の時に、利八がガンで倒れ、祖母・千代に涙ながらに頼まれ、不本意ながら進学を断念し、家業である養鶏に従事することになりました。そうは言っても、経営の右も左もわからない父は、とにかく卵を売ればいいと考え、きょうだいにも手伝ってもらいながら、横浜の団地に卵の引き売りを始めました。父は「団地の奥さんから『お宅の卵、美味しかったわよ』とお褒めの言葉をいただくことが一番嬉しかった。」と言っていました。これがわが社の販売の原点です。

事業が軌道に乗ってきた時に、「鶏屋」と言われ下に見られることがあり、本当に悔しい思いをしました。「世の中に必要なものを提供し、後ろめたいことをしているわけではない。卵屋だって、胸を

張ればいいんだ」と自身を鼓舞し、事業に邁進すると共に、鶏卵産業の地位の向上に努めました。結果、港南区工業会の会長や、商工会議所の支部長を務めるなど、地域経済の発展にも貢献しました。

創業当時、卵は高級品でしたが、業界全体の努力の結果、卵は日本人の食生活に欠かすことのできない食品になりました。しかし、日本は少子高齢化、人口減少の時代に向かっています。「将来のことを考えると、今自分たちが頑張らないと、子供や、次の世代にもっと良い環境を残せないんだ」という思いがあります。

振り返ってみると、初代・利八も二代目・節夫も、事業活動を通じて地域社会への貢献、納税、業界の発展、職員の地位向上など、我欲でなく、世のため人のためという大きな視点で物事を考え、行動してきました。

これからも、私たちは、この社会奉仕の精神を胸に、豊かな食文化を創造し、健康で心豊かな生活に貢献していきましょう。

## 【相互信頼の精神】

### ○ 地域社会、お客様、協力業者様と共生し、相互信頼関係を構築したい。

#### (解説)

創業者の利八は、すごく義理堅い人で、「まず相手を信じる。そうしないと相手からも信じてもらえない。」と言っていました。露店でガラスの指輪のことを「ダイヤモンドだ」と言われれば、何の疑いもなくお土産に買って来たこともありました。純真だったので、祖母に言わせると、多々だまされたこともあったようです。

親分肌で、自分から何をするわけではないが、頼られたら自分が出来る範囲でやってあげる。

皆から信頼される祖父でした。今でも父が高齢の地元の方とお会いすると、「利八さんのご子息ね」と言われることがあります。面倒見がよかったので、祖父が亡くなった時には多くの会葬者が参列してくれました。

二代目・節夫は、祖母・千代からよく祖父がだまされていたことを聞かされていたので、注意深いところがありましたが、祖父同様、すごく義理堅く、まず人を信じることから始めていました。

中小企業は人と人との信頼関係で成り立っています。職員を信じ、協力業者様を信じ、信頼関係を築くためには、お互いに信頼しあえるように努力する。

「あるスーパーとの商談がまとまり、10歳ほど年上の社長と接待ゴルフをした時に、相手のことを思って飛距離をあえて短く伝えたら、『笠原君が200ヤードだったら、僕は100ヤードしか飛んでいない

ことになるね』と言われ、ハッとした。『商売は手を抜いたり、策を練ったりするんじゃない』と暗に言われた。相手に対して気を遣っているようで、全然気を遣えていなかったことに気づいて恥ずかしかった。それ以来、どんな人にでも、腹にためた会話はしない。そのままの自分をさらけ出す。あとは相手が判断すればいい。意見が反対であろうが、『そういう考え方なんだな』ということは伝わる。駆け引きはしなくなった。」と父は言っていました。

また、1980年代初頭、青森の協力業者様から定期的に商品を届けてもらっていたが、不良品が出たことを連絡したら、当時、交通手段は上野までの在来線しかなかった時代に、謝罪と確認をするために、翌朝早くには事務所の前で待っていました。「そこまで自分の商品に自信と責任を持っているんだ」と驚きました。「こういう人が作っている卵だったら、自分たちも責任を持って売らないといけないんだ」と気づかされたと同時に、「何かあったら、すぐに対応しに行く」ということで、相互信頼関係が深まりました。

仕入れる側も売る側も、相手がいなければ売ることも買うこともできず、事業が成り立ちません。地域社会、お客様、協力業者様と今まで以上に共生し、相互信頼関係を構築していきましょう。

## 【人間尊重の精神】

○ あなたならではの仕事を通して、より生き生きと輝いてほしい。

### (解説)

人間だれしも使命を持って生まれてきています。存在価値もある。仕事は、その使命を見つけ、自身の存在価値を自覚するための一つの手段です。

人が10人いれば、10人の個性があり、その人ならではの役割や考え、思いがあります。

個々で考え、あなたの役割を明確にし、活躍できる場があると、自分の存在価値を見出すことができ、生き生きと輝いてくるんです。

二代目・節夫は、創業者が倒れ、不本意ながら家業を継ぐことになりましたが、21歳の時に農場の建設、22歳で取締役になり、その後も、チャレンジし続けることで、自身の存在価値を見出してきました。

僕自身、大変だった時のほうが、得られた達成感が大きかったです。

100メートルを12秒で走れる人は12秒を切れるように、15秒で走れる人は15秒を切れるように、力の出し惜しみをしないでベストを尽くせば、成長した自分に出会えます。

あなたには無限の可能性が 있습니다。自分自身の可能性を信じて、頑張れば、頑張った分、大きな達成感を得ることができるのです。

僕は、あなたのことを信じています。職員一人一人が自分自身の使命と責任を果たし、お互いを尊重し、切磋琢磨して、より生き生きと輝けるチャンスを用意するので、思い切ってぶつかってきてください。

わが社は、人間尊重の精神を貫いていきます。

## 【無我無心の精神】

### ○ 社会のため、お客様のため、周りの人のため、無我無心。

#### (解説)

創業者・利八は、周りの人のため、地域社会のために、全力を尽くしました。

会社の前の道路整備が難航していた時に、「地域発展のためなら」と、自ら周りの地主に働きかけ、説得し、自身の土地も寄付して道路を通せるようにしました。

また、丁稚奉公で来ていた若い衆が独立する際には、「養鶏で生計を立てろ」と自分の土地の一部を無償で提供したりもしていました。

祖母・千代からは「あんたそこまで面倒みなくてもいいんじゃないの」と言われるくらい、深入りすることもありましたが、一度「やる」と決断すると、最後まで周りの人のためにやり遂げる人でした。

二代目・節夫は、利八が立ち上げた横浜養鶏組合の最後の組合長に就任しました。就任当時には、組合の必要性がなくなっており、解散を迫られていましたが、出資金の取り扱いなどで意見がまとまらず、宙ぶらりんになっていました。困り果てていた職員から「何とかありませんか」と頼まれた節夫は、「職員のためなら」と自ら行動することを決意しました。長い年月をかけ、有力出資者を説得に回り、無事に組合を解散させることができました。

後日、出資者の方々からは、「よくやってくれた。君じゃなかったら、できなかった」と感謝されました。

また、本社のある横浜市港南区が、区政 50 周年を迎えた時には、「創業以来、ここで商売させていただいた」という感謝の思いから寄付をしたり、地元工業会の会長や、商工会議所の支部長を歴任するなど、地域経済の発展のために尽力してきました。

僕自身、熊本の震災の時には、同業の養鶏場が被災し、卵が出荷できず困っていたので、全国の親しい同業者に声をかけ、卵を工面しました。「あればあるだけ買います」と言っていたので、卵を高く売ろうと思えば、売れたけども、それはしませんでした。

利八も節夫も、事業意欲はありましたが、人を利用してビジネスを発展させようということはなく、無我無心でやってきました。

僕も、人が困っている時にはまず助ける。何かあればお互い様だと思っています。

だからこそ、社会のため、お客様のため、周りの人のために、無我無心の精神を貫いていきます。

## 【チャレンジ精神】

### ○ チャレンジこそ創造。日々新たに。

#### (解説)

創業者・利八は、新しもの好きでチャレンジ好きでした。今でいう臆せず投資をする人でした。鶏糞を活用したメタンガス発電もその一つ。また、昭和40年代前半に「東京湾に海底トンネル（現在の東京湾アクアライン）ができて便利になる」という情報を耳にした利八は、君津農場の建設を決意。生産体制の基礎を築きました。

「とにかくやってみる」。そんな信念で日々色々なチャレンジをしていました。

そんな利八の背中を見て育った二代目・節夫は、家業を継いだ際に、経営の右も左もわからない中、「とにかく卵を売ろう」と、団地での引き売りを始めました。

昭和54（1979）年には団地での引き売りを辞め、販売会社を設立し、卸販売に大きく舵を切りました。これが八千代ポートリーの原点です。

また、養鶏業という枠にとらわれず、異業種の考え方や手法、情報を仕入れ、良いものは良いと柔軟に取り入れ、「チャレンジ＝イノベーション、創造。」という考えのもと、失敗を恐れず、様々な投資にチャレンジしました。

平成4（1992）年には、労働生産性、労働環境向上のため開放鶏舎からウィンドレス鶏舎へ移行。

平成7（1995）年には費用対効果、資本効率を考えて日本でも初となる本社兼立体GPセンターを建設しました。

僕が本社勤務になった頃、本社立体GPセンターが時代に合わなくなってきていました。「このままじゃいけない」と危機感を抱いて父に相談したら、投資金額も聞かずに「思い切ってやってみろ」とチャレンジを促されました。そして完成したのが、2006年の自動倉庫型GPセンターでした。

「人も企業も、現状に満足していると成長しない」と自分自身によく言い聞かせています。

父が良く言っている「九転十起、失敗しても最後に起き上げればいいんだ」という思いを胸に刻み、これからも日々新たにチャレンジし続けます。

## 【家族主義の精神】

○ 職員は大事な家族。「わが人生に悔いなし」と言える、幸せを追求しよう。

### (解説)

わが社は、創業当時から一緒に働いてくれる職員を大事な家族だと思って接してきました。

創業者・利八は面倒見がよく、おせっかいで、丁稚奉公を受け入れて、わが子に接するように育てて独立を支援していました。

二代目・節夫の時代は、朝から晩まで仕事が忙しかったので、職員が食事したり、休憩や仮眠をとるために笠原家にやってきていました。そんな時に節夫は、働いている人の顔色を見て、健康状態や悩みはないかなど、「最近調子どうだ」と一人一人の様子を確認していました。

給料をもらうとその日のうちに使ってしまう人には、「日々の生活や、将来の蓄えが必要だろう」と心配して、給料のうち何割かをその人名義で預金して、残りを本人に渡していました。

また、「私生活が充実していないと仕事も充実しない。まず自分が満足できる生活を送ること。その中に何でもいいから、車が欲しいとか、家を建てたいとか、夢や目標を持つと、より充実した人生が待っている。自分の仕事を通した夢や目標があれば、生きがい・やりがいを持って日々頑張れる。アイデア、イノベーションも出る。こういうことが必要じゃないかと思っている。」とよく言っていました。

僕も、職員は大事な家族だと思っています。

縁あって一緒に働いていただける、一人一人の生活を、責任を持って保障します。

職員から「結婚した」、「子供が生まれた」、「家を建てた・買った」、という話を聞くと、嬉しいと同時に、より責任を感じます。

家族である皆さんと一緒に充実した人生を送りたいと思っています。

誰にでも平等にあるのは時間だけです。

手を抜くのも、一生懸命過ごすのも、どんな一日を過ごすかは自分次第です。

毎日の積み重ねが、自分の人生の未来につながります。

「わが人生に悔いなし」と言える、幸せを追求していこう。